

## 大阪 - マヒドンインターナショナルオフィスの設置について

海外交流

藤田 清士\*, サティダー カンジャマーポンクン\*\*, 秋永 真由\*\*\*

Establishment of the Osaka-Mahidol International Office

Key Words : ASEAN, International Affairs Office, Hybrid Learning Program

### はじめに

2023年8月18日、マヒドン大学サラヤキャンパスにて、大阪 - マヒドンインターナショナルオフィス設置にかかる開所式が執り行われた(図1)。マヒドン大学と大阪大学は、共同研究、共同シンポジウム及び学生交流を中心に50年以上にわたり様々な交流活動を継続しており、2017年には同大学における大阪大学ASEANキャンパスを、また2019年には本学内に大阪 - マヒドンインターナショナル



図1 開所式には、マヒドン大学から Banchong Mahaisavariya 前学長、Nopraenue Sajjarax Dhirathiti 副学長をはじめ21名が、大阪大学からは田中理事・副学長、山本ベバリアン理事・副学長をはじめ教職員14名が出席した。



\* Kiyoshi FUJI-TA

神戸大学大学院 自然科学研究科 地球環境専攻博士後期課程 修了(1994年)  
現在、大阪大学 総長補佐、グローバルイニシアティブ機構 教授、工学研究科教授 博士(理学)

E-mail : fujita@fsao.eng.osaka-u.ac.jp



\*\* Sathida KANJAMAPORNKUL

大阪大学大学院 言語文化研究科 日本語・日本文化専攻 博士後期課程 修了(2021年)

現在、大阪大学グローバルイニシアティブ機構 特任助教  
博士(日本語・日本文化)

E-mail : k.sathida.cgin@osaka-u.ac.jp



\*\*\* Mayu AKINAGA

関西学院大学 経営戦略研究科 修了(2024年)

現在、大阪大学 国際部 国際企画課係員  
修士(経営)

E-mail : akinaga-m@office.osaka-u.ac.jp

オフィスを設置している。ASEAN キャンパス事業では、ジョイントキャンパスオフィスを活用した、ダブル・ディグリー・プログラムや短期プログラム・研究プログラムなど、様々な取り組みが展開されている。又、本学の大阪 - マヒドンインターナショナルオフィスには、マヒドン大学の様々な研究科から教職員の利用があり、本学の教職員との交流が活発化している。

2023年10月1日、大阪大学とマヒドン大学との連携をさらに促進させることを目的として、本学のオフィスがマヒドン大学の本部内に設置された。

### オフィス移転の経緯

大阪大学は、2004年から米国・サンフランシスコを皮切りに、4か所の海外センターを設立した。2005年にはオランダ・フローニンゲン、2006年にはタイ・バンコク、そして、2010年には中国・上海の海外拠点が設立された。3番目の海外拠点として開所した「バンコク教育研究センター」は、2014年には「ASEAN 学術イニシアティブセンター

(バンコク事務所)」と改称し、2017年には、「大阪大学 ASEAN 拠点」としてその機能を強化した。旧拠点は、バンコク市内のアソーク地区の Serm-Mit Tower にサービスオフィスを借りていたが、新拠点は他の海外拠点と同様に、協定大学との関係強化に向けて、2023年10月にタイ・ナコンパトム県マヒドン大学サラヤキャンパス内に大阪・マヒドンインターナショナルオフィスを開設した。

### 大阪・マヒドンインターナショナルオフィスの新たなミッション

大阪大学では国際戦略として、ASEAN キャンパス事業を推進している。大阪大学が ASEAN 諸国の大学と連携を強化し、現代の様々な社会課題の解決と持続可能な発展に資するための研究・教育・共創の場を創出することを目指している。大阪大学 ASEAN キャンパス事業は以下の3つの基軸を据え、教育・研究を促進することを目指している。

(1) 大阪大学 ASEAN キャンパスに設置した実験機器や設備を利用し、ASEAN 諸国の大学との強固な連携のもとに、ダブル・ディグリー・プログラム (DDP) 等の教育支援を行う。

(2) 大阪大学の国際的ハイブリッドラーニングプログラム (OUICP: Osaka University International Certificate Program (OUICP) /OUICP-S: Osaka University International Certificate Program S (OUICP-S)) を提供し、オンライン講義科目や海外実習科目で構成されるハイブリッド型教育プログラムを ASEAN 諸国の協定校および本学の大学生・大学院生に提供する。

(3) 大阪大学 ASEAN キャンパス SDGs 共創ネットワークの形成をする。本ネットワークでは、ASEAN 諸国の社会課題の解決および持続的発展への貢献を目的としている。本学と ASEAN キャンパス事業に参画する組織が様々なステークホルダー (政府、企業、NPO、NGO、学生、地域住民など) との協働 (シンポジウムやワークショップの開催など) を支援・実施する。

これらの事業を強力に推進するためには、ASEAN の有力拠点大学を中心とした活動が必要である。マヒドン大学と大阪大学は、密な教育研究交流があり、確固たる協力体制が結ばれている。今後は、ASEAN 地域のハブであるマヒドン大学の本部、各

部局及び国際部との関係を強化し、本学の教育プログラムや研究交流の円滑な実施を遂行する予定である (図2)。又、マヒドン大学を拠点として、タイの ASEAN キャンパス連携機関 (チュラロンコン大学・カセサート大学・キングモンクット工科大学、タマサート大学、タイ国立科学技術開発庁、日本・タイ新興・再興感染症共同研究センター) との関係強化を目指す。学生交流では、OUICP の新規学生獲得などを計画している。



図2 マヒドン大学での留学説明会 (2024年1月31日)

また、大阪・マヒドンインターナショナルオフィスを活用することで、タイの ASEAN キャンパス連携機関との協力に基づいた留学説明会が実施されている。この取り組みにより、各連携機関の学生に対して直接的かつ個別に大阪大学が有するプログラムの内容や参加のメリットを詳細に説明する機会が設けられており、学生からの質問や関心にもその場で対応することができる。このような双方向のコミュニケーションを通じて、OUICP (-S) プログラムのみならず、大学間全体の国際交流プログラムに対する応募意欲が高まり、特に各連携機関の優秀な人材を確保することが期待されている。さらに、これらの説明会の実施を通じて、各連携機関との関係が一層強化され、特に教職員との連携がより深まりつつあり、今後の共同研究や学生交流プログラムの発展に向けた強固な基盤が築かれている。これにより、OUICP (-S) プログラムをはじめとする各プログラムの質が一層向上し、長期的な国際協力の推進において重要な成果が期待される。

2024年5月、マヒドン大学の国際部職員及び理学療法学部国際担当職員らが本学に滞在し、大阪・マヒドンインターナショナルオフィスを活用した

マヒドン大学の海外職員研修が実施された（図3）。研修では、本学教職員との面談や施設見学が行われ、最終日には研修成果報告会があり、本学教職員との活発な意見交換が行われた。意見交換を通じて、両大学の課題やニーズが共有され、新たな共同研究やプロジェクトの可能性が広がった。今後も定期的な交流や共同研修を行い、国際的な視野を持つ人材の育成が期待される。



図3 マヒドン大学職員の大阪大学での海外研修成果報告会（2024年5月14日）

その他、タイを中心にASEANキャンパス（インドネシア・マレーシア・ベトナム・ブルネイ）及び連携機関との関係強化を目指す。新たな試みとして、国際ジョイントシンポジウム（大阪大学・マヒドン大学）や教育プログラム（OUICP（-S）等）で協力を深め、双方のグッドプラクティスを共有し、大学間連携をより強固にする事も目指している。

## おわりに

2023年度に設置された大阪・マヒドンインターナショナルオフィス（図4、図5）は、単に協定大学にオフィスを設置した事ではなく、長年にわたる教育研究交流の実績に基づき、オフィスが開設された。現在までに大阪大学で教育を受けた留学生がタイおよびASEANの各大学に戻り、研究者として活躍したり、学部長、副学長、学長として活躍しており、大阪大学との連携も強化されてきている。この連携は50年以上にわたり継続されており、教育・研究を通じての国際交流活動が如何に重要であるかを示すものである。

大阪大学は、ASEAN地域において、様々な教育研究の発展に貢献してきた。国際戦略としての

ASEANキャンパス事業は、教育及び研究の基軸を明確に示すために設定されたものであり、大阪・マヒドンインターナショナルオフィスがASEANキャンパス事業の中核を担う拠点になることが期待されている。ASEAN地域は経済発展だけでなく、教育研究の伸張が世界から注目されている地域のため、ASEANの中心に位置する新拠点を大阪大学のASEANのゲートウェイとして活用することも重要な役割となる。



図4 マヒドン大学サラヤキャンパス内の本部棟1階に設置された大阪・マヒドンインターナショナルオフィス



図5 オフィス内に設置されたデスク

## 謝辞

大阪・マヒドンインターナショナルオフィス設置にあたり、関達治・名誉教授、望月太郎・人文学研究科教授、藤山和仁・生物工学国際交流センター教授、久田均・前ASEAN拠点長から多くのご助言を頂戴した。国際部の中川美智子氏、秋山徹雄氏、槇美津甫氏、パチャラポーン ティナワン氏にはオフィス移転に多大なるご尽力をいただいた。紙面にて感謝申し上げます。